

豊かな体験活動推進校 紫尾小学校

1 取組の概要及び成果等

(1) 取組の概要

- ① ボランティアなど社会奉仕に関わる活動
 - ア マカベシルバートピア（福祉施設）訪問（1～4年生）
- ② 自然に関わる体験活動
 - ア 「なかよし川」の動植物観察（低・中学年）
 - イ 「なかよし川」の環境保全活動（5年生）
- ③ 勤労生産に関わる体験活動
 - ア 米づくり体験（田植え・稲刈り等）（全学年）
 - イ 野菜づくり体験（ミニトマト、オクラ、サツマイモ、なす、ピーマン等）（2～4年生）
- ④ 文化、芸術に関わる体験活動
 - ア 昔の遊び体験（けん玉、お手玉、だるま落とし等）（1年生）
 - イ 土鈴作り（3年生）
 - ウ 手話体験（4年生）
 - エ オカリナ作り（5年生）
 - オ つるし雛作り（手芸クラブ）
- ⑤ 交流に関わる体験活動
 - ア しおっこ祭り（異学年交流）（1・2年生）
 - イ しおっこ郵便局（異学年交流）（1・2年生）
- ⑥ その他の活動
 - ア 地区探検（低学年）

(2) 特に工夫や配慮をした事項

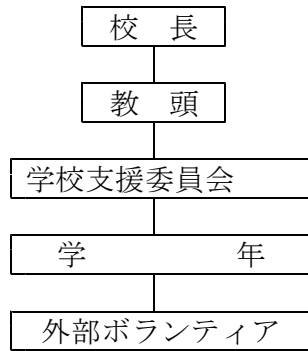
- 豊かな体験活動を教育課程に位置付け、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等との関連を図りながら実践できるように配慮した。
- 地域のひと（人材）・もの（施設や自然など）・こと（歴史や文化など）を生かした体験活動に取り組む中で、改めて地域のよさに気付くことができるように体験活動の内容を工夫した。
- 各活動を実施する上で、保護者や地域ボランティアの方との打ち合わせが十分にできるように配慮した。

(3) 成果等

- 水稻やヒラタケ、サツマイモ等の栽培体験活動を通して、勤労の大切さを実感し、同時に生き物を大切にすることをはぐくむことができた。
- 地域のひと・もの・ことを生かした体験活動に取り組む中で、改めて地域のよさに気付き、川の環境保全活動に取り組んだり、地域の歴史について興味をもって調べたりする児童が見られるようになった。
- 本校の校庭を流れている「なかよし川」を活用し、生物の観察やクリーン作戦等に取り組むことによって、環境問題に関心をもち、進んで保全活動をしようとする意識が高まった。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

(1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要



(2) 成果等

- 体験活動を推進していくために、P T A本部役員を学校支援委員会のメンバーとして、様々な活動に関わる諸準備や各種団体への協力依頼など積極的に行っていただいた。
- 学校支援委員会の各委員の協力により、本年度計画した様々な活動を、安全かつスムーズに実施することができた。
- 学校支援委員会の積極的な活動により、本校の教育目標である「自ら考え、心身ともに健康でたくましく、心豊かな子どもを育てる」の具現化に向けて大きな成果を上げることができた。

3 今後の課題と改善点

- 毎年実施している水稻（餅米）の栽培などは、マンネリ化しがちである。また、田植えと稲刈りの体験活動のみで、生育途中の管理はP T A役員にお願いしている。児童が、自分たちで育てたと実感できるように体験活動の在り方を見直していきたい。
- 地域の教育資源（ひと・もの・こと）を生かして体験活動に取り組んできたが、さらに活用できる教育資源が地域にはたくさんあるので、総合的な学習の時間の年間活動計画等を随時見直していく必要がある。